

令和6年8月記者会見要旨

開催日時 令和6年8月20日(火) 午前10時30分 302会議室

(総務部長)皆さんこんにちは。常日頃より大変ありがとうございます。
それではただいまより8月の定例記者会見を開始します。よろしくお願いします。

(市長)皆さんご苦勞様でございます。本当に記者クラブの皆さんありがとうございます。特に、8月15日の花火大会、諏訪市においても最大級のイベントになりますが、台風や南海トラフ地震臨時情報が出るなど、いつもよりも緊張感のある準備状況でありましたが、しっかりと整えた上で、花火が上がっている間は雨も上がっていて、皆さんに喜んでいただけるよい第76回諏訪湖祭湖上花火大会ができたと感謝しております。今回の大会は、昨年に引き続きフードコート工夫とか、新たに観覧席を設けるとか、いくつかの新しい試みを組み込んで実施いたしました。また協賛金も、スポンサーの皆さんに昨年の最高額をさらに上回る史上最高額のご寄附をいただいたことによってプログラムも増やすことができました、開催の工夫も加わり、また、最後の花火師さんとのキャッチボールといいますか、観客席との対応に満足感が非常に高く、参加した感というのを持って皆さんお帰りいただけたという感想をいただいているところです。現在経済部の方で数字等につきまして集計をしている最中ですので、また準備が整いましたらお知らせできると思いますが、メディアの皆さんにも様々な情報等を流していただいたり、協力をいただいたり、お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(9月の日程説明等)

○諏訪市地震総合防災訓練 諏訪南中学校ほか

目 的

諏訪市全体で南海トラフ地震を想定した訓練を実施し、地区訓練では避難行動や安否確認等を行うことで市民の防災・減災意識の高揚を図るとともに、災害対策本部では職員の行うべき災害対応活動や関係機関との連携協力等について、より確実に迅速な態勢を確立することを目的とする。また、主会場となる中洲地区では、地区公民館等の一次避難所での訓練と、諏訪南中学校を広域避難所として開設・運営することで、住民と災害対策本部の連携強化を目的とする。

実施期日 令和6年9月1日(日) 午前中

主会場訓練(中洲地区)

地区ごとに、情報伝達・避難誘導・安否確認等の訓練を実施し、地区公民館等で広域避難所へ移動するまでの一次避難所での訓練を行い、その後、主会場(諏訪南中学校)にて広域避難所開設・運営訓練に参加する。

災害対策本部設置訓練

諏訪市災害対策本部を設置し、初動期における本部員及び各対策部職員が行うべき意思決定、役割、災害対応活動の確認及び応急対策上の課題を把握する。主会場訓練として、住民とともに諏訪南中学校を広域避難所として開設した後、避難所運営訓練を実施する(諏訪南中学校は、上川、宮川から距離があり、令和3年の大雨の際に避難所として開設された。また、令和5年度に防災備蓄倉庫を新設したことから、避難所の開設・運営の主会場とした)。

福祉避難所開設・運営訓練

主会場となる諏訪南中学校にて広域避難所が開設されることにあわせて、福祉避難所の開設・運営も想定して、要配慮等の災害時の対応について訓練を実施する。

訓練想定

諏訪市が南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されていることを受けて、南海トラフ地震臨時情報を受信し、南海トラフ地震（マグニチュード9.1規模）が発生、震度6弱のゆれによる被害発生、災害応急対策に至るまでの一連の流れを想定。

非常時通信網開設訓練・・・・・・・・・・協力事業所 スターリンクによる通信訓練

電源供給訓練・・・・・・・・・・協定事業所 トヨタの電気自動車

○諏訪市長杯霧ヶ峰ドックススポーツフェスティバル

9月7日(土) 8:00

9月8日(日) 8:00

○諏訪湖まちじゅう芸術祭2024

9月7日(土)～9月23日(月・振替休日)

●主催：実行委員会／諏訪湖アートリング協議会

●開催実績：別紙のとおり。初回は2005年。現在の形態・内容になって今年で6回目。

●参加施設：諏訪湖アートリング協議会会員15館のうち14館。

『アートリング協議会』2011年発足。諏訪市、岡谷市、下諏訪町に点在する文化施設が結成。幅広いジャンルを擁するこの諏訪湖アートリングを、諏訪湖を中心とした大きなひとつの芸術や文化の体験の場と捉え、地域における芸術文化環境の充実、地域の皆様に理解され愛されることを目指し、共同活動に取り組んでいる。

2024年4月現在の会員数・15館。

○敬老祝賀訪問 市内各戸

敬老祝金・祝品の配布数

男女最高齢 2名 祝品・祝状及び賞状額

100歳 20名 記念品(祝状及び賞状筒) 日本酒・りんごジュースセット

99歳 40名 祝状及び賞状額

88歳 386名

※ 101歳以上 47人(2024.08.14現在) 男性：4人 女性：43人

○第24回 諏訪市農業祭・第20回 JA信州諏訪農業祭

テーマ 「地産地消 とともにいかそう諏訪の農産物」

開催日時 令和6年9月14日(土) 午前8時30分～午後1時00分

開催場所 諏訪市文化センター及び敷地内駐車場

●クレヨンしんちゃんショー(2回公演)

●ふわふわドーム

●金魚すくい

Suwa後山ブランド化プロジェクト ピュアホワイト(トウモロコシ)

はちみつ りんどう 枝豆などを販売

諏訪園芸振興協議会 諏訪園芸振興協会 お花を使った置物工作ワークショップ

○霧ヶ峰高原草原再生作業

9月21日(土) 9:00

- 総合教育会議 302会議室
9月24日(火) 10:00
- 第76回 諏訪湖祭湖上花火大会 表彰式
9月27日(金) 17:30
- 第77回 秦野たばこ祭 秦野市
9月29日(日) 午後

(総務部長)こちらからの説明は以上となります。ここからは、記者クラブさんの方にマイクを移させていただきたいと思います。当月の幹事社であります中日新聞社さん、よろしくお願いします。

記者との質疑応答

○第76回 諏訪湖祭湖上花火大会の反省について

(記者)花火大会大変お疲れ様でした。私たちも大変いい席で、大迫力を楽しませていただきつつ、ただ、大変携帯電話の電波状況が悪く、全く繋がらないので、支社支局に走って戻って送稿するという汗だくの1日となりました。初めてだったので大変でした。

(市長)携帯電話のキャリアによっても違いがあるのですか。

(記者)全部駄目だったようです。

(市長)反省事項とします。

(記者)キャリアの一部の基地局、臨時のような車は見かけましたが、おそらくそれだけではキャパシティが足りなかったという状況なのかなと理解しているのですが、それもあり早い時間帯から繋がらなくなってしまったので、もちろん私たちも焦るのですが、一般の方は連絡が取れなくて困るという状況があったのかなと思っていました。

質問に入らせていただきます。岸田首相が退陣することになり、この後自民党の総裁選が行われることとなりますが、首相が変わることの受け止めをお話いただければありがたいです。(市長)首相の退陣というのは、首相ご本人の専権事項ですので、判断と尊重して、今対応準備がなされていると承知をしております。我々地方の自治体としましては、その手続きについて介入する立場ではございません。しかしながら関心を持って注目をしたいと思っています。その上で、新たに政権がスタートしましたら、今までと同様、地域、この諏訪市、私の責任においては、諏訪市の様々な事業や目標を達成するために、皆さんのお力をお借りすることがたくさんありますので、良好な関係を作って、応援をいただきながら一緒に頑張っていきたいと思っています。

(記者)花火関連でお聞きしたいのですが、これから反省会等があると思います。今時点で特に新たな試み、フードコートとかその辺りの成果と課題というのは、市長はどういったところを見えていますか。

(市長)私個人でよろしいですか。全体についてはまだ掴んでおりませんので、バイアスがかかっていけませんが、私は始まる前に全会場視察をしました。新たな椅子席、フードコートには椅子等、テーブル席が用意されていましてレイアウトも広がっていました。花火大会の間においてフードコートに入る機会はありませんでしたが、昨年のような並んでいたところと違うところに行ってしまったとかそうしたことはなかったと聞いています。それから翌日、ゴミ拾いに行った時にフードコートも視察をさせていただきましたが、思いのほか大変きれいでゴミもほとんどなく、整然として、後の片付けを待つばかりになっていました。それを見たときは、しっかりと統制がされて、皆さん協力をされたという感想を持ちました。それからフー

ドコートを作ったことにより、湖周線がスムーズに人の行き来ができるようになったこと、これは昨年もそうでしたが、一番は救急車両が入れないという困った状況がなくなったということとは本当に大きな成果であったと思っています。それから水分補給に課題を残したということで、今回は沿道のホテルの皆さんも水分補給のブースを出されていましたが、当実行委員会としまして、タケヤみそさんの前の駐車場に飲み物と食事の売り切りの場所をセットしましたので、これについてはまた皆さんからの評価を伺いたいと思っています。カメラマン席が一部埋まらなかったところがあったのですが、栈敷席についてほぼ完売ということも人気をいただき、ありがたかったと思っています。そしてさらに、今までなかったフードコートの部分もそうですが、間欠泉の北側の栈敷席につきましても完売して、諏訪湖の花火に対する期待値というのが、コロナを経てどんなふうに変わっていくのかという心配もありましたが、昨年今年と着実に皆さんの注目と期待は上がってきているのだらうとに受けとめています。

(記者)市長に報告が入っているかわからないですが、繰り返しのアナウンスにもかかわらず座り込みでの観覧や、人を流さなくてはいけない通路で立ち見が始まってしまうということがあったりして、その辺が課題かなと個人的には思ったのですがどうですか。

(市長)消防団の解散式の時の一部の報告の中に、やはり沿道に座ってしまう方たちがいたということで、できる限り消防団もそこを立ち退いてもらうようお願いをしたのですが、聞いていただけない方たちもいたということは伺いました。難しいところは、お祭りということで花火大会を楽しみにいらしている方たちに対して、強制的なきつい対応をすることによって雰囲気壊してしまっって印象を悪くするといったこともあるかもしれないので、その辺も警備に当たってくれる方たちもやんわりと配慮しながら協力を依頼するという形でやっていただいていると思います。幸いなことに、そういう方たちによって、緊急車両が阻害されたとかいう事態にはなっていませんでしたので、何とかぎりぎりのところで目的は達成できたと思いますが、今後はやはりルールを守らないと思っている人たちからすると気持ちのいいものではありませんので、皆さんにルールを守っていただくように呼びかけは継続するように頑張りたいと思います。

○南海トラフ地震臨時情報について

(記者)南海トラフ地震臨時情報ですが、今回その発出を受けて、一週間あったわけですが、そこで何か諏訪市として見えてきた課題等ありますか。

(市長)緊張感が走りました。実際に日向灘で大きな地震が起こって、それが南海トラフに連動するという可能性の注意喚起で、巨大地震注意が出ました。それが気象庁から出されたということで、即座に警戒本部を立ち上げました。そして、大きなイベントを控えていましたので、その何万という人たちを安全に避難誘導をするということが現実味を帯びて、警戒本部でも議論されました。従いまして、警戒本部にシフトしたのが夜の8時だったのですが、翌朝までに各対策部において、それも念頭に、BCPも含めて対応すべきことなどの結果報告を翌朝の会議で発表するというので、一旦それぞれ部局に戻り、レビューをした結果を持ち寄って、対策会議で共有しました。というようなことで、本当にいい緊張感を持って対応をしましたので、9月1日の訓練より前にもう一回、大きな結果としては訓練になったと思っています。さらに花火大会が開催中のその最中に大きな地震が起こった時に、どのように皆様を誘導するかということも議論になりました。まずは、明石のような事故も経験値として踏まえ、人が押し寄せて人が倒れこんでそれによって圧死するとか、けがをするというような二次災害は抑えなくてはいけないということで、放送班を中心に各ゲートに対応する職員たちも、皆さんに落ち着いて本部の指示に従ってもらいたいということをしっかり徹底し、一旦落ち着いてもらうということ、それから順次人々を誘導していくという、そういう情報共有の仕組みというようなことも共有させていただいたというようなことを中心に対応、心構えを整えていました。

(記者)地震について、市の方でも、防災の既存の対策は色々されていたと思うのですが、改めてその既存のやり方で、何かここが足りなかったのではないかと、課題なのではないかという、見えたところは何がありますか。

(副市長)まず、南海トラフの臨時情報が出たというのは、皆さんもご承知のとおり初めての出来事でした。南海トラフ臨時情報が出た際に、諏訪市の警戒本部がどう動くのかというマニュアルは前もってでき上がっていましたので、我々はそのマニュアルに沿って動いたわけですが、通常の大雨ですとか、そういったものは経験値があるので、そのマニュアルをすぐに開いてそこを確認できますが、そこを開くのも初めてだったということ、経験値がなかったがゆえに最初のページを開いて、どう動くのかということを確認するまでに若干の時間が必要だったというところは、一つ課題としてあるかと思います。あとは、注意情報は出てはいるが、ここは実際には揺れていなかったわけです。実際被害はないわけです。その中で何をどう整えるか、これはもう各セクションがどこまで想像力を働かせて、こうなった時にどうしよう、こうなった時にどうしようという事前の想定について各セクションへの伝達をきめ細やかに、当日夜ですが係長以上に集まってもらって行った。これも初めての出来事で、そういう意味では、経験値がないということが大きな課題ではありましたが、精一杯の対応をしたと受けとめています。

(総務部長)私は総務部に所属しています。その中で諏訪市内は水害が毎年のように起こっているので、そういう部分での備えというのは、割とシミュレーションできていてスムーズだったのですが、今副市長から話がありましたように、南海トラフというものをとらえた時に、既存のマニュアルと違うところがいくつかありました。例えば職員の参集範囲というの、いきなり注意というものが出た時に全職員をすぐに集めるというようなマニュアルになっているのですが、現実的にはおそらくあの時点では必要なかただろうということで、要はマニュアルを運用する、そのつなぐところで実際のマニュアルと運用の違いというものの課題というのがいくつか各部局であった。あとは例えば庁舎において、今本当に地震が起こった時に、どのように市民を避難させるのか。例えば、給湯室という火を扱っているところがある。そこで誰が火を消しに行くのか、その細かい部分のシミュレーションというのは当然できていなかったもので、それを改めて見直すという部分では、いい機会という言葉が適切かどうかかわからないが、そういうものをひとつひとつ見直し、それをまた職員に周知をしていく機会にはなったので、それが既存でやっている水害対策とは少し異なった部分だったということは感じている。

(記者)花火シーズンにそういったことが起こるというのは、現時点でのマニュアルでは何か織り込まれているものと思っていますがいかがでしょうか。

(市長)花火大会を開催するかどうかということの判断基準というマニュアルはありますが、諏訪市のBCPだとか、災害の対応マニュアルの中に、大きなイベントが同時開催中であつたときということは、特に記載ではないです。

(副市長)8月15日の花火大会に向けて様々な準備作業が行われている期間が、長く言えば1ヶ月2ヶ月ありますが、花火の準備期間中であつてもなくても、災害が起きた時の対応は特に変わりはありません。ただ15日の花火大会をやる、やらないというジャッジについては、こういう地震の時はこうするというルールは決めてありますが、準備を途中でやめる、やめないというジャッジの基準はないということでご理解ください。

(市長)何万人という人たちがこの諏訪市内にいらしている状況で地震が起こらないとも限らないということを強く意識づけられたことは確かで、気持ちの上でも大変緊張感を持ちまして、こういう言い方が適当かどうかわかりませんが、大変鍛えられた結果になりました。

○パリオリンピック銅メダル獲得大岩選手の表彰について

(記者)パリオリンピックで、大岩選手が馬術で銅メダルを獲得しましたが、長野県の方でスポ

ーツ特別栄誉賞という話もありますが、諏訪市の方では何か表彰ですとかそういう考えはありますか。

(市長)諏訪市の企業に所属されている選手でもあり、我々も毎回、オリンピックに出場するたびに激励の横断幕をかけたり応援をしてきましたので、考えております。詳細については、担当が部長になります。

(総務部長)今回オリンピックで銅メダルを受賞されましたので、市の表彰基準に則って、4月1日に表彰というケースもあります。なかなか帰国される機会がないので、帰国の際をとらえて表賞という形になりますと、80周年の際の小林圭さんの時にあったような特別賞のような形をぜひ受賞していただくのがいかがかと、いくつかのパターンがあるので、いずれにいたしましても、ご本人に賞を渡したいという気持ちもありますので、市としての市長表彰を、今検討しているところです。

(記者)時期的なところでいつということの調整はされているのですか。

(総務部長)帰国のタイミングによるので、いつというところまでは言えないですが、ただ、先方と連絡を取りながら、期間が長く帰ってくるときに表彰式ですとか、時間があればそこに講演会とか何かイベントと併せて表彰式等ができればいいなということを考えていますが、先方とこれから連絡を取り合いながら決めていくところです。

(記者)これから連絡をとって、何かしらの特別表彰みたいなものをというところです。

○南海トラフ地震臨時情報について(追加質問)

(記者)追加で一つ、先ほどの南海トラフ関連で教えていただければと思いますが花火の最中に、万が一起きた場合に、一時的に何万人の方が身を寄せられるような場所は、どこか確保していますでしょうか。

(市長)諏訪市は数年前に大雨で花火の途中で避難という事態がありました。その時から本格的に例えば文化センターとか市の公民館とかすわっチャオだとかそういうところを避難所にある程度指定していて、今回特に各ゲートの責任者としてその系統に入っている人たちが、仮に地震等災害があったときに、どの避難所に誘導すればいいかという確認を今回各ゲートで行っております。例えば、文化センターに近い側のゲートの人が文化センターへの誘導等を職員が担うようにということを今回確認してやっています。ですので、何かあったときにはそれぞれ各避難所に誘導するような、そんな対策はとっています。

(記者)収容キャパシティが、どうなのかなというところが気になるのですが。

(市長)市民の多くも色々なところで花火を見ています。ですから、安全に帰宅するという選択もあると思います。水害と地震が同時ということの想定はゼロではないですが、地震を想定した場合、安全に歩いて帰られる方もいらっしゃると思います。それが押せ押せの混乱に陥ることが一番危険だということでもまず落ち着いていただくことが大事です。それから安全を見ながら、地震の時には、建設部、農林課(経済部)は、現地の市内の危険情報を確認するという作業があります。例えばどこかの橋が落ちているのに車で行ってしまっって、二次被害ということがあってもいけません。手順を踏みながら情報を出していきますので、誘導に従っていただくことが基本になります。その施設というか避難所にすべての人を収容しなければならないかというところではありません。地震想定の中に、いかに安全に人々を安全な場所に誘導するかということが大事だと思います。避難所はその一つであり、行くところのない方たちに対しての大事な場所になりますが、自宅が安全である方は自宅に戻られるかもしれませんが、大きな校庭のような広い場所にいた方がいいと判断されれば、そこにいい方がいいということもあります。

○パリオリンピック銅メダル獲得大岩選手の表彰について(追加質問)

(記者)先ほどの大岩選手、80周年記念で新設した市長表彰特別賞も検討していくということ

よろしいですか。

(市長)その賞も含めて、まだ決定しておりませんので、決定した時に、どのような賞になるかはお伝えします。

(記者)これは検討していることを表明した、ということでよろしいか。(記事として)市長が語ったとみんな書くと思います。

(市長)何らかのふさわしい賞を考えていますということをお願いします。市長表彰の中には、例えば医療貢献だとか、善行表彰だとか、いろんな種類があります。何になるかはまた特別賞なのか何かは決まってないですが、大きな市長表彰の枠の中に入れて考えていきたいということです。

(総務部長)市長表彰という枠組みは変わらないですが、表彰の種類はいくつもあるものですから表彰規則の中でも定めがあるので、そういう中でやっていくという、それは例えばイベントの中で特別なものなら、この前のような、特別賞みたいな形もありますし、4月1日にやっている中では善行表彰だとか功労表彰とか、いろんな賞もあるのでそういう中にもありますし、それを含めて市長の表彰という中での、どういうタイミングでどういう形で渡せるかによっては、またいろいろ形が変わってくるというだけの違いですので、市長表彰、市長賞というのは変わらないところです。

(記者)名古屋に大岩選手が行っていらしたみたいなので、もしかしたらそのまま諏訪に来るかなと思っていたのですが、それはなかったということですか、今来ていないということは。17日に来ていてうちの新聞に載っています。

(市長)公的なものではないようなので把握できていません。

(総務部長)ありがとうございました。以上をもちまして定例記者会見を終了します。ありがとうございました。